



CITIZEN

2022年度（2023年3月期）
第1四半期決算説明会

シチズン時計株式会社
2022年8月12日

2022年度第1四半期業績概要

広報IR担当の古川です。

2022年度第1四半期決算につきまして、ご説明いたします。

2022年度第1四半期実績

- 時計事業が販売を大きく伸ばした他、工作機械事業も堅調に推移し、増収増益
- 為替差益の計上等により、経常利益は前年同期比69%増益
- 四半期純利益は前年同期比65%増益

2022年度通期業績予想

- インフレ懸念の高まり等を背景に消費動向の不透明感が増していることから、売上高・営業利益は前回予想を据え置き
- 経常利益・当期純利益は1Qまでの為替差益相当額を反映
- 売上高 2,935億円 (前回予想比 変更なし)
営業利益 225億円 (前回予想比 変更なし)
経常利益 260億円 (前回予想比 +20億円)
当期純利益 190億円 (前回予想比 +10億円)

まず、今回の決算の主なポイントですが、

欧米での販売好調が継続し、時計事業が販売を大きく伸ばした他、工作機械事業も堅調に推移したことにより、売上高は前年比9%増、営業利益は前年比32%増と増収増益となりました。

また、為替差益の計上もあり、経常利益は前年比69%増となった他、四半期純利益は前年比65%増といずれも増益となりました。

通期業績予想につきましては、インフレ懸念などを背景に消費動向の不透明感が増していることから、売上高、営業利益は前回予想を据え置いています。第1四半期で計上した為替差益21億円相当額を反映し、経常利益を前回予想比20億円増の260億円、当期純利益を10億円増の190億円とそれぞれ引き上げました。

(単位：億円)	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	657	713	+55	+8.5%
営業利益	42	55	+13	+32.0%
営業利益率	6.4%	7.8%	-	-
経常利益	50	85	+34	+68.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	43	72	+28	+65.2%
為替レートの影響	¥109/USD ¥131/EUR	¥126/USD ¥137/EUR	-	-

第1四半期の損益計算書の概要です。

売上高は、前年比55億円増の713億円となりました。

営業利益は、前年比13億円増の55億円、営業利益率7.8%となりました。

経常利益は、21億円の為替差益を計上したこともあり85億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増益に加え、固定資産売却益など特別利益18億円を計上したことにより、72億円となりました。

2022年度第1四半期 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	290	351	+61	+21.1%
■ 工作機械事業	186	199	+12	+6.9%
■ デバイス事業	131	109	▲21	▲16.4%
■ 電子機器他事業	49	52	+3	+6.9%
合計	657	713	+55	+8.5%
営業利益				
■ 時計事業	14 (5.2%)	39 (11.2%)	+24	+163.9%
■ 工作機械事業	26 (14.3%)	27 (13.5%)	+0	+1.0%
■ デバイス事業	9 (7.1%)	▲0 (▲0.5%)	▲9	-
■ 電子機器他事業	3 (7.4%)	3 (6.6%)	▲0	▲3.5%
消去又は全社	▲12	▲13	▲1	-
合計	42 (6.4%)	55 (7.8%)	+13	+32.0%

5

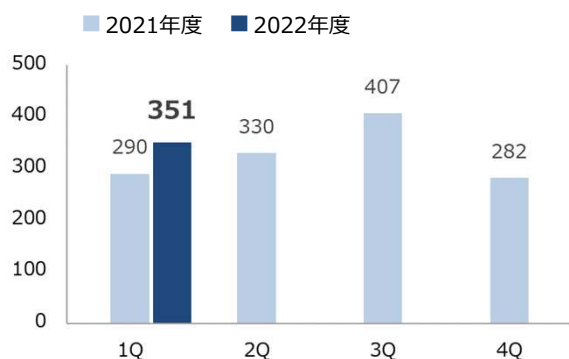
セグメント別の業績の明細になります。

時計事業は計画を上振れて、前年比21%増収、164%増益となりました。
 工作機械事業は7%増収、1%増益、
 デバイス事業は苦戦し、減収減益となりました。
 電子機器他事業は半導体調達懸念がある中、7%増収と健闘しました。

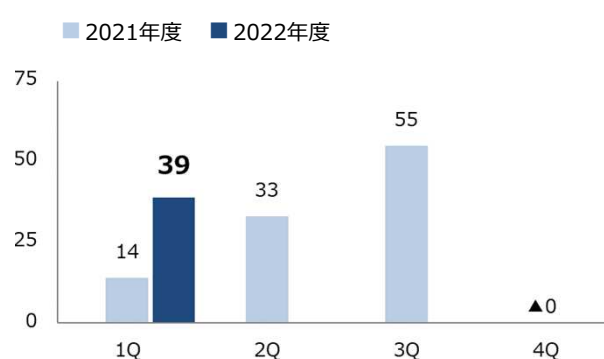
第1四半期

- 完成品販売 中国市場はロックダウンの影響により減収となったものの、北米・欧州市場の好調が牽引し、大幅増収
- ムーブメント販売 機械式ムーブメントの需要は減少したものの、クォーツムーブメントが好調に推移し増収

売上高(億円)



営業利益(億円)

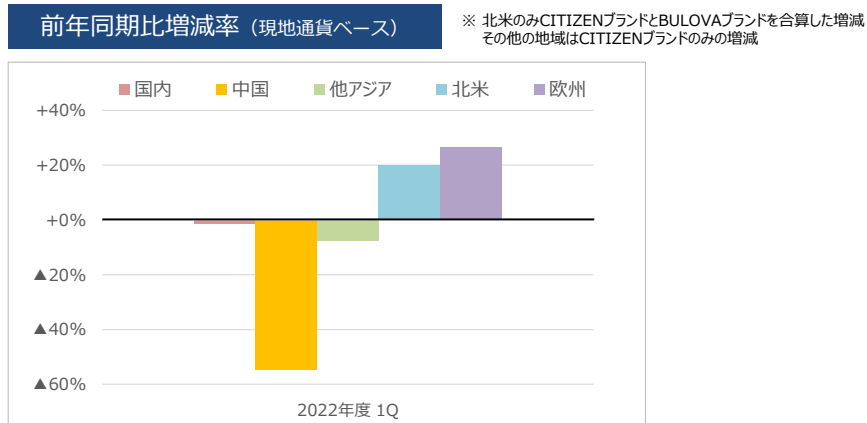


それでは、事業別の概況をご説明します。

時計事業の完成品販売は、中国はロックダウンの影響により減収となったものの、北米・欧州の好調が全体をけん引し、大幅な増収となりました。

ムーブメント販売につきましては、機械式ムーブメントが中国市場の落ち込みを受けて減収となりましたが、多針系などの高付加価値クォーツムーブメントに加え、スタンダードムーブメントの販売も好調に推移し、増収となりました。

営業利益は、増収効果と為替影響などにより、39億円と増益になりました。



- 北米、欧州の好調が全体を牽引した一方で、中国が大幅減
- 国内 消費マインドは回復方向も前年並み
 - 中国 ロックダウンに伴い大幅減収
 - 他アジア 依然として消費マインドは弱く減収
 - 北米 百貨店等の主要流通が好調継続。トラベル流通向けも回復基調
 - 欧州 英国、ドイツ、フランス、スペイン等が好調に推移し増収

続いて、地域別の前年比売上高についてご説明します。

赤色が国内ですが、消費マインドは徐々に上向きつつあるものの、オミクロン株の拡大や厳しい猛暑による人流減の影響を受け、前年並みとなりました。

黄色の中国は、ロックダウンに伴う物流の混乱や消費の低迷により、大幅な減収となった他、

薄緑のアジア地域も消費に力強さがなく、減収となりました。

水色の北米は、デパートなど主要流通が好調を保ったほか、クルーズ向けなどトラベル流通の回復も寄与し、増収となりました。

薄紫色の欧州も、英国、ドイツ、フランス、スペインなど全般的に販売が好調に推移し、増収となりました。

前年に引き続き、欧米向けの販売増が全体をけん引する形となりました。

The
CITIZEN



『The CITIZEN』和紙文字板の限定モデル

- 「借景窓で切り取る四季」を表現した土佐和紙文字板の限定モデル「Iconic Nature Collection」
- 発売日 : 8月25日
- 価格 : 希望小売価格 385,000円(税込)
- 限定数量 : 世界限定各 250本

8

続いて、中期経営計画で掲げているプレミアムブランド強化に向けた取り組みに関する新製品について、ご説明します。

CITIZENブランドの最上位モデル『The CITIZEN』から、土佐和紙を用いた「Iconic Nature Collection」の第2弾を発売します。

借景窓から切り取ったような美しい四季の情景を表現しています。

「綾錦(あやにしき)」、「静寂(しじま)」と名付けられたこの2モデルは、漉きこまれた繊維が雲の中を翔ける龍のような模様を持つ「雲龍紙」を文字板に採用し、グラデーションの彩が美しい仕上がりとなっています。



『カンパノラ』初のトゥールビヨンモデル「天」と「地」

- ブランド初となるフライングトゥールビヨンを搭載した薄型機械式ムーブメントに会津漆文字板を合わせた2モデル
- 発売日 : 6月1日
- 価格 : 希望小売価格 9,350,000円(税込)
- 限定数量 : 各5本



『カンパノラ』コスモサインコレクション Moon Time

- 文字板の上に月の満ち欠けを正確に再現し、月齢、月と太陽の位置、太陽の出没時刻を表示したカンパノラ独創の月齢盤モデル
- 発売日 : 5月26日
- 価格 : 希望小売価格 352,000円(税込)
- 限定数量 : 150本

また、『CAMPANOLA』からは、傘下のラ・ジュール・ペレ社製の複雑機構のムーブメントを搭載し、和の美意識とスイスの時計づくりが融合した「グローバルアートコレクション」をスタートさせました。

第1弾となる「天」と「地」は、フライングトゥールビヨンを搭載した薄型機械式ムーブメントに、会津漆文字板を合わせ、ガラスに遮られたわずかな空間に、無限の宇宙を閉じこめる「中空の美」を表現しています。

また、5月に発売された「コスモサイン ムーンタイム」は、宇宙への憧憬をかき立て、月の満ち欠けを表示する限定モデルです。中世ヨーロッパの天文時計を思わせる、黒地にウォームグレーの月と、紺色にゴールドの五徳リングを組み合わせ、天文時計が備える科学的な魅力にクラシックな雰囲気を加えました。

こちらのモデルは既にセルインベースでは完売しています。

ATTESA



『シチズン アテッサ』「HAKUTO-R」コラボレーションモデル

- ブランド誕生35周年記念限定モデル第2弾
民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」コラボレーションモデル
- 発売日 : 7月7日
- 価 格 : 希望小売価格 319,000円(税込)
- 限定数量 : 世界限定 1,000本



新開発「結晶チタニウム」で月面を表現

10

また、『シチズン アテッサ』では、ブランド誕生35周年記念第2弾として、民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」とのコラボレーションモデルを発売しました。

キズに強い「デュラテクトDLC」で処理したスーパーチタニウムは、月着陸船ランダーのパーツ素材の一部に採用されています。

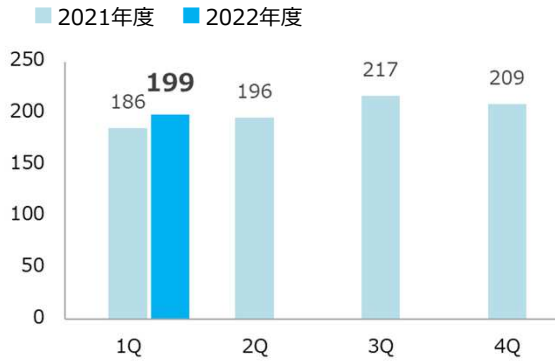
また、バンドの中駒に使用した、新開発の「結晶チタニウム」で生まれる模様は、まるで月面を様々な角度で写し取ったかのように、これから始まるHAKUTO-Rのミッションを連想させるデザインになっています。

このモデルもセルインベースでは既に完売しています。

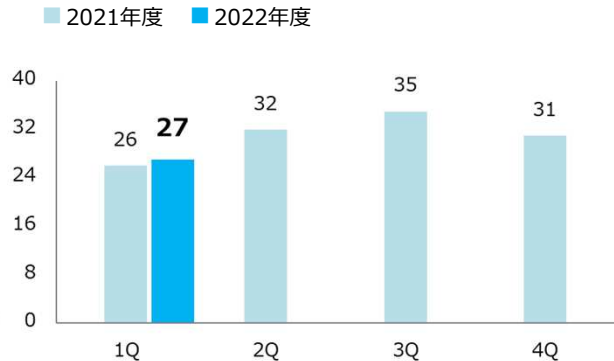
第1四半期

- 国内販売 自動車向けが伸び悩むも、半導体・建機など幅広い業種が好調に推移し、増収
- 海外販売 欧州・米州市場を中心とした旺盛な設備投資需要を受け、増収

売上高(億円)



営業利益(億円)

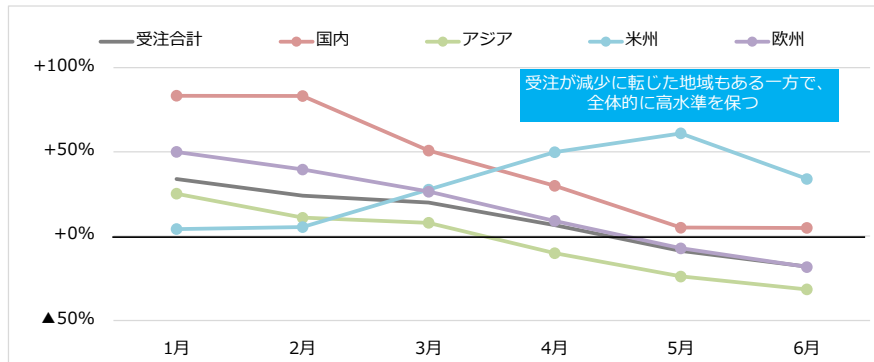


続いて、工作機械事業の概況をご説明します。

部材調達遅延の状況に改善が見られない中、国内販売は自動車向けが伸び悩むも、半導体・建機など幅広い業種が好調に推移し、増収となりました。海外販売は、欧州・米州を中心に医療関連等の旺盛な設備投資需要を受け、増収となりました。

売上高は199億円、前年比7%増と増収を確保したものの、物流コストの増加や部材価格の高騰の影響もあり、営業利益は若干の増益にとどまりました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 1Q前年同期比増減率(四半期受注台数)

- 受注合計 ▲18% 部品調達難に伴う長納期化が進み、アジア・欧州地域がマイナス
- 国内 +5% 自動車は減産影響を受け伸び悩みも、半導体、建機などが好調維持
- アジア ▲32% 中国市場のロックダウンの影響により減少
- 米州 +34% 医療関連を中心に積極的な設備投資が継続
- 欧州 ▲18% 設備投資に慎重姿勢が広がるも、受注は高水準を維持

こちらは、地域別の受注状況です。

折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率になっています。昨年の第1四半期の受注が特に高い水準であったため、前年割れとなっていますが、受注が売上計画を上回っている状況が続いており、受注残は依然として増加しています。

なお、6月受注分より値上げを実施したため、米州を中心に一部、駆け込み受注が見られました。

下の表は、第1四半期の受注台数の前年比、伸び率を地域別に示しています。全体の受注台数は前年比18%減と、一服感は見られたものの、引き続き高い水準を維持しています。

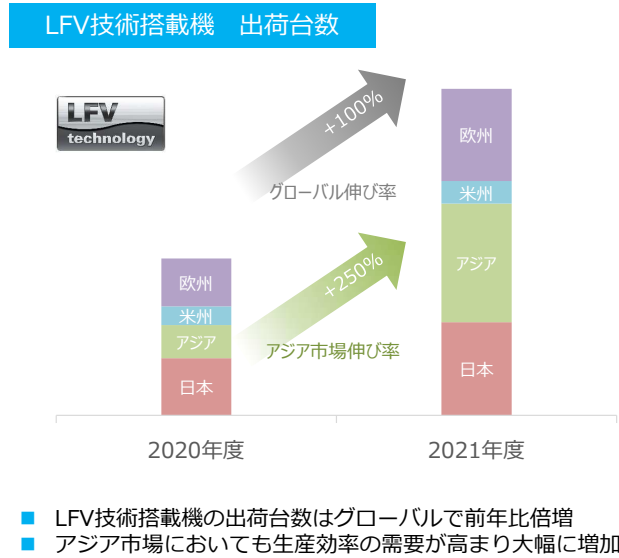
なお、前四半期対比では、受注は5%減となります。

国内は、自動車関連が自動車の減産の影響を受け伸び悩みましたが半導体や建機などが好調に推移し、前年比5%増となりました。

アジアは、中国のロックダウンによる影響が大きく、アジア地域全体では前年比32%減となりました。

米州は、引き続き医療関連を中心に積極的な設備投資が継続し、前年比34%増となりました。

欧州は、自動車関連などで設備投資への慎重姿勢が見られ前年比18%減となりましたが、引き続き高水準の受注がありました。



※ LFV（低周波振動切削）技術は、シチズン独自の制御技術で切削中に“空振り”時間を設けることにより、切りくずを細かく分断しながら加工する技術

続いて、工作機械事業の付加価値戦略である、加工技術による差別化に向けた取り組みについて、ご説明します。

LFV、低周波振動切削技術はシチズン独自の制御技術であり、切削加工における切りくずに関する課題を解決する技術としてグローバルに展開を進めてきました。

これまでは国内や欧州を中心に普及してきましたが、2021年度は特にアジア市場で大きく伸ばしています。

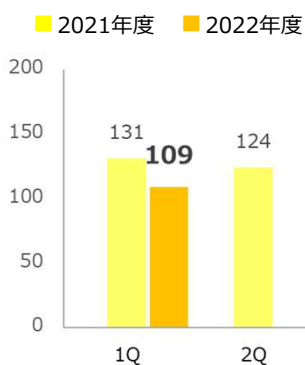
2021年度の工作機械事業売上高は前年比70%増という結果でしたが、LFV搭載機種に関しては前年比100%増となっています。

アジア市場はこれまで価格志向が強い地域であり欧米市場ほど普及が進んでいませんでしたが、2021年度よりLFV搭載機種のメリットが広く認知されてきたということです。

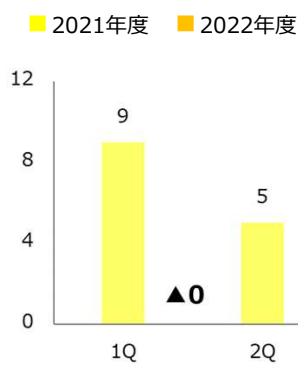
第1四半期

- 精密部品 自動車部品は自動車メーカーの減産等の影響を受け、減収
水晶デバイスはIoT関連需要に一服感が見られ前年並み
小型モーターは医療関連や半導体関連が堅調継続も部品調達難の影響から伸び悩み
- オプトデバイス 照明向けLEDが中国ロックダウンの影響を大きく受け減収となった他、
車載向けLEDも落ち込み、減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



最後に、デバイス事業について説明します。

売上高は109億円、前年比16%減、営業利益は前年比9億円減となりました。

下振れの要因としては、主にオプトデバイス、自動車部品になります。

自動車部品は自動車の減産の影響を受け、特に国内向けの売上を落とし、減収となりました。下期からは回復を見込んでいます。

水晶デバイスや小型モーターは売り上げが伸び悩み、前年並みに留まりました。

オプトデバイスは主に照明用LEDが中国のロックダウンや半導体、部材調達難などの影響を受け、顧客の在庫の消化が進まず、大幅な減収となりました。

また、車載向けLEDも売上減となり、デバイス事業全体で減収減益となりました。



CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
なお、億円未満は切り捨てになっています。

以上で私からのご説明を終了します。
ご清聴ありがとうございました。

2022年度 上期及び通期連結業績予想

(単位：億円)	2022年度5/12予想		2022年度8/12予想		増減額	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,425	2,935	1,425	2,935	+0	+0
営業利益	105	225	105	225	+0	+0
営業利益率	7.4%	7.7%	7.4%	7.7%	-	-
経常利益	110	240	130	260	+20	+20
親会社株主に帰属する当期純利益	80	180	90	190	+10	+10
為替レートの影響	¥120/USD	¥120/USD	¥120/USD	¥120/USD	-	-
	¥130/EUR	¥130/EUR	¥130/EUR	¥130/EUR		

■ 為替影響額 (1円円安の年間影響額)

売上高	USD	EUR	営業利益	USD	EUR
	+9億円	+4億円		+2.5億円	+2億円

2022年度 上期及び通期連結業績予想 セグメント別業績推移

		(単位：億円 / %：営業利益率)		2022年度5/12予想		2022年度8/12予想		増減額	
		上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	■ 時計事業	680	1,420	680	1,420	+0	+0		
	■ 工作機械事業	410	820	410	820	+0	+0		
	■ デバイス事業	250	510	250	510	+0	+0		
	■ 電子機器他事業	85	185	85	185	+0	+0		
	合計	1,425	2,935	1,425	2,935	+0	+0		
営業利益	■ 時計事業	54 (7.9%)	115 (8.1%)	54 (7.9%)	115 (8.1%)	+0	+0		
	■ 工作機械事業	64 (15.6%)	128 (15.6%)	64 (15.6%)	128 (15.6%)	+0	+0		
	■ デバイス事業	12 (4.8%)	29 (5.7%)	12 (4.8%)	29 (5.7%)	+0	+0		
	■ 電子機器他事業	3 (3.5%)	8 (4.3%)	3 (3.5%)	8 (4.3%)	+0	+0		
	消去又は全社	▲ 28	▲ 55	▲ 28	▲ 55	+0	+0		
合計	105 (7.4%)	225 (7.7%)	105 (7.4%)	225 (7.7%)	+0	+0			

■ 2022年5月12日における業績予想から売上高および営業利益に変更なし